

全国学力・学習状況調査を活用した

授業づくり参考資料

【小学校】



掲載事例

【国語】

- ・学校の取り組みをオンラインで紹介し合う 1 二 (2)

【算数】

- ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察する 4 (3)

活用にあたって

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の問題から考えられる「授業づくり」のポイントや、指導の手だての例を掲載しています。子どもたちへの指導の参考例としてご活用ください。

活用のポイント例

自校の状況をもとに考えよう

「1. 問題の概要」を活用して

「出題の趣旨」や「学習指導要領の内容」、「評価の観点」から

「どのような力をつけるのか」をつかみましょう。

資質・能力

「正答の条件」や「正答例」から

「どのような姿をめざすのか」をつかみましょう。

「2. 児童・生徒の状況(解答類型抜粋)(質問紙調査)」を活用して

「解答類型」や「経年比較のグラフ」から

「どのような姿なのか」をつかみましょう。

具体的な
児童・生徒の状況

「3. 授業づくりのポイント」を活用して

「授業づくりのポイント例」から

「どのような指導ができるのか」をつかみましょう。

指導の手だて

全国学力・学習状況調査の活用例



全教員で問題を解く



問題や解答を交流する



・全学級で取り組む指導の手だてを構想する

・教科等横断的に取り組む指導の手だてを構想する



自校の解答類型を分析する



子どもの課題を把握する



学校で取り組む重点目標を構想する



解説資料や授業アイデア例を活用した研修をする



授業アイデア例で示された指導を実際に授業で取り入れる

参考

文部科学省 調査結果の活用・分析の取組

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1344286.htm



国立教育政策研究所 「教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



1. 問題の概要

出題の趣旨

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。

学習指導要領の内容 第5学年及び第6学年 A 話すこと・聞くこと ウ

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

評価の観点 思考・判断・表現

(2)和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

正答
(類型2)

深緑小学校 村木さん ① はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

海風小学校 和田さん ② はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願いします。

③ メールありがとうございます。図書委員のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのようかいて、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出席されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

⑧ 本に興味をもってもらえるようになるのはいいですね。ぜひやってみます。

⑨ 次に、私たちの学校の給食についてしょうかいしたいのですが、いいですか。

⑩ お願いします。

⑪ アイデア給食というものがあります。年2回、自分たちが考えたこんだてが登場します。海に近くて、魚がたくさんとれるので、魚料理などを考えます。みんなでアイデアを出し合ったこんだてが登場するので、アイデア給食と呼んでいます。

⑫ みんなで考えたこんだてが出るなんてうらやましいです。私の学校は、ランチルームがあり、全校のみんなで給食を食べます。

⑬ みんなで食べられるなんて、楽しそうですね。

⑭ はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みはありますか。

⑮ えっと…〔和田さんのメモを見返す〕、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、毎週の清掃活動です。

⑯ 二つもあるんですね。ぜひ、一つ一つ詳しく教えてください。

～(交流が続く)～

2. 児童の状況 (解答類型と反応率)

| | 解答類型 | 反応率(%) |
|----|---|--------|
| 1 | 「相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。」と解答しているもの | 29.8 |
| 2 | 「相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。」と解答しているもの | 50.1 |
| 3 | 「相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。」と解答しているもの | 3.4 |
| 4 | 「相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。」と解答しているもの | 15.6 |
| 99 | 上記以外の解答 | 0.3 |
| 0 | 無解答 | 0.8 |

目的や相手、状況などを踏まえ、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方などに注意し、自分の考えが伝わるよう表現を工夫することに課題があると考えられる。

3. 授業づくりのポイント

- 言語活動において、相手や目的をより一層意識させましょう。
 「話すこと・聞くこと」の領域においては、聞きての反応や、聞きての要求に応じて即興的に話し方を工夫することや、話し言葉と書き言葉の違いを踏まえて表現を工夫することも求められます。
- 「表現の改善点」だけでなく、「表現のよさ」にも着目させましょう。
 表現の改善点を見つけることももちろん大切ですが、同様に、その表現のどの部分がどのように良いのか、「表現のよさ」にスポットを当てて考えさせることも大切です。
- 表現する側と受け取る側、双方から考える活動を取り入れましょう。
 話してや書いて、読んでや聞きて、両方の立場から表現の工夫について考える活動を設定することが大切です。

【小学校算数】 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察する(道のりと時間と速さ) 4 (3)
 (家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く)

1. 問題の概要

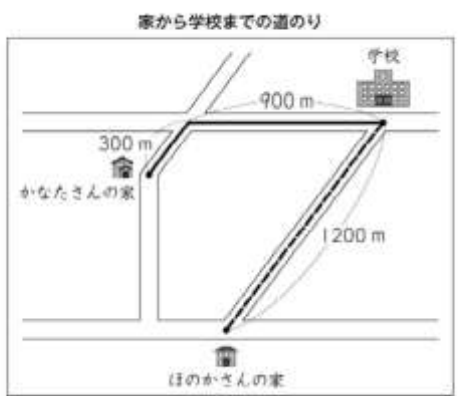
出題の趣旨
 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容 第5学年 C 変化と関係(2)ア(ア)・イ(ア)

- ・速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。
- ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。

評価の観点
 思考・判断・表現

(3) かなたさんとはのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。
 家から学校まで、かなたさんは20分間、はのかさんは24分間かかりました。
 それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとはのかさんのどちらが速いですか。
 下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。
 また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん
 2 はのかさん

正答(例)

- ・かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900 + 300 = 1200$ で、1200mです。かなたさんとはのかさんが歩いた道のりは、1200mで同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。(解答類型1)
- ・かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900 + 300 = 1200$ で、1200mです。だから、かなたさんの歩く速さは、 $1200 \div 20 = 60$ で、分速60mです。はのかさんの歩く速さは、 $1200 \div 24 = 50$ で、分速50mです。だから、かなたさんのほうが速いです。(解答類型4)

2. 児童の状況 (解答類型抜粋と反応率)

| | 解答類型 | 反応率(%) |
|----|--|--------|
| 1 | 1と解答し、A①、A②の全てを書いているもの | 18.9 |
| 2 | 1と解答し、A①またはA②を書いているもの | 33.9 |
| 3 | 1と解答し、A②について書いているが、不足のあるもの、または誤っているもの | 4.0 |
| 4 | 1と解答し、B①、B②の全てを書いているもの | 10.4 |
| 5 | 1と解答し、B①またはB②を書いているもの | 0.7 |
| 6 | 1と解答し、B①、B②の全てを書いているが、不足のあるもの、または誤っているもの | 0.3 |
| 7 | 1と解答し、上記1～6以外の記述、または無解答 | 8.9 |
| 8 | 2と解答し、A①、A②の全て、またはA①またはA②を書いているもの | 3.6 |
| 9 | 2と解答し、B①、B②の全て、またはB①またはB②を書いているもの | 4.6 |
| 10 | 2と解答し、B①、B②の全てを書いているが、不足のあるもの、または誤っているもの | 0.3 |
| 11 | 2と解答し、上記8～10以外の記述、または無解答 | 11.1 |
| 99 | 上記以外の解答 | 1.0 |
| 0 | 無回答 | 2.4 |

正答

「かなたさんのほうが速い」と考えているにも関わらず、説明に何を書けばよいか理解できていないと考えられる。

3. 授業づくりのポイント

- ✓ **単位時間当たりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉える場面を設定しましょう。**
 例: 日常の場面に関連付けて速さを捉え、かかった時間で速いか遅いかを判断するためには、「長さが同じであること」が必要な条件であることを理解できるようにする。
- ✓ **必要な根拠を明確にして、筋道を立てて説明するために、論理的に自分の考えを持つことができるようにしましょう。**
 例: 事柄が成り立つわけを考える際には、問題場面や図、表、グラフなどから読み取れることの中で、「どの内容が根拠になるのか」について、子どもたちが対話的な学びを通して理解を深めることができるようにする。